様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３６３０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０２６０７

研究課題名（和文）熟達保育者の個と集団への関わりの可視化と保育者の育成に向けた教材開発

研究課題名（英文）Visualization of the Interaction between Skilled Nursery Teachers and Individuals/ Groups and Development of Video Interaction Guidance for Nursery Teacher Training

研究代表者
岡部　祐子（Okabe, Yuko）

松山東雲女子大学・人文科学部・准教授

研究者番号：８０５９７８９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：保育実践力の向上を目的に熟達保育者の経験知を活かした教材開発と適用方法について検討をした。熟達保育者の実践・解説・中心概念の語りの映像教材を作成しA保育学生とB現任保育者に対して、A視聴と気づき・感想の記述、B視聴と気づきの記述＋2回目視聴・気づきの加筆・感想の記述の2つの方法で調査した。その結果BはAよりも記述量が多いが内容に大きな違いはなかった。一方視聴前後に関りの視点に関する記述を計量テキスト分析したところ頻出語は前後で入れ替わり「促す」「見守る」といった保育者らしい語が消え、「感じる」「考える」「聞く」など自然な行為を表す語が増えた。本教材が関りの視点に影響を与える可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、保育の「質」の向上にむけた試みである。子どもの人権を大切にし将来を見通した関わりを行う熟達保育者の実践から学ぶことは多くある。本研究はこうした視点から課題となっている多忙な保育者への後方支援、未来の保育者への実効ある学習方法について開発・検討した。教材作成について熟達保育者を峻別しその実践を映像記録に収めることは容易ではないうえに、予期しない状況に遭い困難を極めたが、対象保育者・保育施設・園児・保護者・専門職の協力によって叶えられた。学習方法の検討は途上にあるが、熟達保育者の実践映像と修正メッセージ映像の視聴により、保育実践の根幹となる保育観に影響を与えることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study developed teaching material using the empirical knowledge of skilled nursery teachers and examined the usage of the material to improve their teaching skills. Creating video interaction guidance on childcare practices, explanations and main concepts, open-ended surveys were conducted with students studying childcare (A) and in-service nursery teachers (B). Both groups wrote what they noticed and thought as a result of viewing the video. Group B viewed the video twice, wrote what they newly noticed/thought after the second viewing. They wrote longer descriptions than Group A, but the contents were very similar. A quantitative analysis showed that frequently used words changed after viewing the video: words that nursery teachers commonly use, such as “encourage” and "watch over" disappeared; and words that describe natural reactions, such as “feel” and “think” increased. This material may affect the perspective of the interactions of these teachers with children.

研究分野：社会科学

キーワード：保育の質　個と集団の育ち　熟達保育者の経験知　保育者育成の教材開発　VideoInteractionGuidance

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

（1）保育の量の拡大と質保障

本研究の開始時は、子ども・子育て支援新制度が施行されて以降、保育の量の確保とともに保育の質の向上が強く求められるようになり、質の高い保育を実践できる保育者の育成は急務と考えられた。保育の質については、保育の諸条件等複数の要素が関わっている(大宮 2006)とされるが、なかでも保育者の熟達は、質の高い保育実践に深く関与すると予想された。

（2）保育者の熟達化

保育者の熟達化に向けた支援や教育の工夫として、何を目標として、どのようにして初心者から熟達者へと導いていくのかが問題となる。本研究では、保育場面での質の高さのうち子どもの発達に一貫して最も深いかかわりを持っているのは、子どもの人権を重視した“ポジティブな養育”であることを示したNICHD(2009)の報告に着目した。報告者のこれまでの調査でも、熟達保育者は、複数の乳幼児を保育するなかで同時多発的に起こる困難に対し、ポジティブに捉え危機さえも子どもの成長に活かすことがわかっている（岡部 2018)。集団保育の難しさは、個と集団の両方の育ちを支えることにあるが、熟達保育者は、個の思いを活かしながらクラスの合意形成に導き、集団に働きかけながら個への勇気づけを行われていた（岡部 2018)。こうした熟達保育者の実践を可視化し移転を図ることは、保育者の熟達化に貢献すると考えられた。

（3）熟達保育者の経験知の活用

経験知は移転に難しさがある（Dorothy　A, Leonard 2013）とされているが、Cassidy＆Lawrence(2000)は、保育者の実践をビデオ撮影し、行為の理由等について語ることによって行為の背後にある信念を明らかにする研究を行った。熟達保育者の保育実践でのポジティブな関わりを記録・分析し、自身の行為の理由・背景について語ってもらうことで、高次の中心概念の可視化が可能になると推測された。このような映像を利用した教育・支援法にVideo Interaction Guidance(以下VIG)があるが（関根 2010）（近藤 2011)、VIGの「修正メッセージ」に集団を見る目のシナリオを組み込むことで、対象へのポジティブな視点を涵養することが期待できる。

２．研究の目的

以上のことから本研究では、保育者の保育実践力の向上を目的に、熟達保育者の経験知を活かした教材開発と適用方法について検討をすることとした。

具体的には、以下の項目を実施する。

(1)熟達保育者の個と集団に対するポジティブな関わりを抽出しビデオデータ化するとともに、その関わりの意図について尋ねる。

（2）熟達保育者の保育実践における高次の中心概念を半構造化面接調査で明らかにする。

（3）（1）（2）に基づいて映像付教材を作成する。

（4）対象学生・新任保育者らに対しVIGの手法に沿って（3）の教材を視聴することで保育者の役割概念・対子どもへの共感性の活性化を試みる。

（5）参加した学生ごとにビデオの繰り返し視聴による保育者の役割概念の変容過程を分析し、教材の有効性および学生や新任保育者の個々が行き詰まる壁とその際の助言法を検討する。

３．研究の方法

新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受け、当初の計画から大きく変更がなされた。前項(5)繰り返し視聴について実施することができなかった。

（1）教材開発について

①制作期間

教材１の構想期間:2019年６月～2019年10月
教材１の撮影・編集期間:2019年10月～2020年３月
教材２の構想期間:2020年４月～2021年10月
教材２の撮影・編集期間:2021年12月～2022年３月

②撮影場所

北海道内の幼保連携型認定こども園ＡならびにＢの２施設で行った。

③制作のプロセス

＜撮影について＞

1)熟達保育者（以下対象保育者）の内諾および施設長の撮影許可
2)撮影可能な日程の調整
3)保護者への書面による研究説明と同意
4)撮影時間：実践・約６時間/インタビュー約１時間
5)撮影方法：対象保育者に集音マイクを付けてもらい「言葉がけ」を収録した／カメラマン・音声の担当者らに対し事前に研究趣旨を説明し撮影・集音のポイント等を伝えた

＊マイク装着は教材２のみ

6)配慮事項：撮影者らへの記録の取扱いへの同意・健康調査・新型コロナ感染症の抗原検査を実施した

＜編集について＞

1)前掲した対象保育者の保育実践における中心概念（2018）を投影した実践場面を抽出し仮編集を行った。

2)仮編集した映像を動画サイトに限定公開し1週間の確認期間を設け施設管理者・保護者・対象保育者らに確認をお願いした。映り込んだ全園児の保護者の了承を得て最終編集をした。

3)これら映像は（株）シカデンの協力によって、チャプター毎に選択視聴できるようDVD教材にした。

④教材適用の妥当性の検討

本映像教材の客観的評価については、保育者養成に携わる教員、保育施設の管理職、ベテランの保育者、特別支援の実務家等に視聴を依頼し、保育者の養成・育成への適用について尋ねた。その結果、1名のみほぼ全体を否定する意見があったものの、他では視聴後に保育者研修で使わせてほしいとの声が相次いだ。実践の背景等について説明するリーフレット作成等の対応が急がれるが、現時点では試行に値すると判断した。

(2) 教材の適用方法の検討について

対象学生・新任保育者らに対し VIG の手法に沿って作成した教材を視聴することで保育者の役割概念・対子どもへの共感性の活性化を試みるという予定であったが、教材 1 については、保育学生らに対し、リモートでの視聴・気づきの記入・感想という方法しか取れなかった。これらをふまえ、教材2については、以下の方法で調査を実施した。

表1　教材2の構成

チャプター	時間（分）	キャプション
自由な遊び 朝の集まり	21:40	・はじめましての時 ・身のまわりのこと ・虫はともだち ・おんぶ① ・いざこざへの対応 ・さわちゃんのオーナメントづくり ・おんぶ② ・トラブルへの対応 ・朝の集まり ・環境への思い
公園へ	8:15	・共感の言葉 ・遊びが壊れそうな時
給食の時間 午後の遊び	17:38	・くじびき ・雪囲い ・しおちゃんが見つけた土の塊 ・イメージの共有 （かたづけ）
保育者への インタビュー	17:42	・新型コロナウィルス感染症の影響 ・たくさんの要求にどう応えるか ・おんぶのルール ・自然とのふれあい ・ピンチへの対応 ・いざこざへの対応 ・仲間への思い（お祈り） ・外遊びの意味 ・ポリ袋について（環境への思い） ・座席のくじびきについて ・ニシオカマンの由来 ・子どもと保育者の関係 ・子どもへの思い

①調査の期間

2022年8月～2022年12月

各1～2時間程度

②対象と調査の実施形態

＜視聴と記述の手順＞

1)各チャプター毎に視聴・記入する

2)視聴によって得た気づきを A 欄に記入する。

3)ペアワーク or グループワークで気づきを話し合い新たな気づきを B 欄に記入する。

4)保育者へのインタビュー（場面の解説・関わりの意図）を視聴して総合的な感想を記入する。

5)保育者へのさらなる疑問点を記入する。

6)幼児への関わりで最も大切だと思うことについて視聴前・後の変化を記述する。

③分析方法

1) A 欄と B 欄の記述項目数・記述内容の比較を行う。

2)総合的な感想・さらなる疑問・幼児への関りで最も大切だと思うことの総合評価・テキストマイニング（単語の出現頻度・共起ネットワーク等）での分析を行う。

3)対象群別（保育経験等）の比較を行う。

表2　調査の対象と実施形態

No.	対象・人数	実施形態
1	保育士・保育教諭（卒後1年）・8名	園内研修
2	保育教諭（新任～中堅）・24名	園内研修
3	保育学生3年生・38名	授業内

(3) 倫理的配慮

調査・映像収録にあたり、発表者の所属機関の倫理審査を経て、文書・口頭で研究説明を行った。同意を得たもののみ回答を得た。遠隔で行った調査については対象回答用紙にチェック欄を設け同意の有無を尋ねた。

４．研究成果

実施形態によって、すべてのチャプターを視聴できたものと、一部しか視聴できなかったものとがあった。(表 3)新型コロナ感染症拡大の影響と報告者の所属機関の異動が影響した。

(1) A 欄と B 欄の比較

A 欄（自分の気づき）は、№1 群と№2 群の記入量が多かった。№3 群は個人差が大きかった。B 欄（他者の視点との集合）の記入は、どの群も個人差が見られた。記述内容については、言葉がけの内容（否定や断定をしていない・子ども同士をつなぐような・小さなことをほめている・代弁している）に着目している記述が多くみられるものの、「ひとり一人の言葉をよく聞いている」「細かく観察している」といった、そこに至るまでの保育者の姿勢に着目している記述も少なくなかった。

表 3　調査に用いたチャプター

チャプター	№1	№2	№3
自由な遊び 朝の集まり	○	○	○
公園へ	○	○	短時間
給食の時間 午後の遊び	○	○	短時間
保育者への インタビュー	○	○	○

(2) 総合的な感想・さらなる疑問から

どの群も対象保育者の子どもへの肯定的な姿勢について共感を寄せていた。また、「失敗は必要」「一緒に困ったり考えたりする」といった、テキストでは学ばないような対象保育者独自の中心概念に迫る記述が見られた。その一方で、さらなる疑問の項目ではノウハウ的な質問も多くみられた。

(3)「幼児への関りで最も大切だと思うこと」の変化

本項目は№3 群のみ尋ねることができた。テキストマイニング・ツールで、出現回数の多い単語を選び出し、それらが視聴前・視聴後においてどれぐらいの比率で出現するかを分析・比較した結果が表４である。＊上位 10 単語のみ記載

(4) 総合考察

教材作成の課題は熟達保育者の選出に尽きるが、これまでの調査対象の保育者に通底していた中心概念が対象者候補とする一つの指標となり得る。研究者が現場に足を運び実践から学び続けることや、多角的評価による好ましい取り組みの集積が望まれる。

4 (3) の結果では、どの群も教材適用の試行によって、教科書的保育者像からいったん離れ、関りにおける「異視点」を見出し保育への興味を深めていた。調査の中で熟達保育者らが語った「子どもと先生」ではなく、「人と人」として子どもと関わっていくことの大切さ、つまり実践映像と実践の奥にある中心概念が伝わったとも理解できる。新たな教材開発とさらなる適用について検討を重ね、実効を伴う「保育実践の充実」(厚労省 2018-2022) にも付与できるよう研究を重ねることが求められる。

表 4　幼児への関りで最も大切だと思うことの変化

視聴前		視聴後	
促す	100	感じる	100
広がる	100	分かる	100
築く	100	考える	92
動く	100	聞く	68
見守る	100	気づく	63
沿う	100	応じる	46
居る	100	受けとめる	46
離れる	100	見る	37
寄り添う	82	なれる	30
楽しむ	82	困る	30

＜謝辞＞

本研究は熟達保育者・子ども達・保護者の方・ご協力くださった２つの認定こども園の園長先生はじめ先生方・スーパーバイザーの方々・(株) シカデン亀田様のご協力によって行うことができました。また調査にあたり元札幌国際大学教授酒井義信先生に多くのご協力とご助言を賜りました。すべての方々に記してお礼申し上げます。

＜引用・参考文献＞

①大宮 勇雄、保育の質を高める―２１世紀の保育観・保育条件・専門性、ひとなる書房、2006
②NICHD、日本子ども学会編、保育の質と子どもの発達 アメリカ国立小児保健・人間発達研究所の長期追跡研究から、赤ちゃんとママ社、2009
③岡部祐子、熟達保育者によるクラス作りへの認識とプロセス、札幌国際大学奨励研究報告書、2018
④Dorothy A, Leonard、「経験知」を伝える技術 ディープスマートの本質、ランダムハウス、2005
⑤Cassidy, D.J. & Lawrence, J.M. Teacher’s beliefs: The “whys” behind the “how to”in child care classroom. Journal of Research in childhood Education, Vol.14,No.2, 193-204,2000
⑥関根恵、ビデオ・ホーム・トレーニングを用いた自閉症児とその母親への面接過程、心理臨床学研究第 28 巻第 4 号、412－422、2010
⑦近藤清美、ビデオフィードバックを用いた母子関係の介入： ビデオ視聴後の母親の気づき、北海道医療大学心理科学部研究紀要 7 巻、1-9、2011
⑧厚生労働省報告、保育の現場・職業の魅力向上検討会、2018－2022

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 岡部祐子
２．発表標題 保育者養成における熟達保育者の実践知を適用した学習方法の検 討ーVideo Interaction Guidanceに向けた試行からー
３．学会等名 日本保育学会第74回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 長谷川景子,岡部祐子
２．発表標題 2歳児クラスの遊びと生活のデザイン　認定こども園への移行に伴う保育部創設の事例から①
３．学会等名 日本保育学会第73回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡部祐子,長谷川景子
２．発表標題 2歳児クラスの遊びと生活のデザイン　認定こども園への移行に伴う保育部創設の事例から②
３．学会等名 日本保育学会第73回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡部祐子
２．発表標題 熟達保育者の経験知を活用した保育者育成教材の検討
３．学会等名 日本保育学会第76回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 長谷川景子,岡部祐子
２．発表標題 認定こども園における０・１歳児の主体的な遊びを誘う環境構成―教育課程を見通す実践の取り組み―
３．学会等名 日本保育学会第74大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 長谷川景子,岡部祐子
２．発表標題 0 歳児の試行錯誤を見出し育てる記録の検討①
３．学会等名 日本保育学会第75大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中野　茂 (Nakano Shigeru) (90183516)	札幌国際大学・人文学部・教授 (30116)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関